

We 地域医療、その先の未来へ

advance

2004年秋「東住吉森本病院」移転新築に向けて

新しい東住吉森本病院をつくります。

私たちのめざす、
これからの
新しい病院とは？



医療法人 橘会

東住吉森本病院

Higashi Sumiyoshi Morimoto Hospital

診療所の先生方へのメッセージ

対話と連携による開かれた医療をめざして、新しい東住吉森本病院をつくります。

このたび、私ども東住吉森本病院は、地元医師会の皆さまの推薦をいただき、大阪府で初の「地域医療支援病院」の承認をいただくことができました。

当院は、昭和46年に開設以来、この街と共に歩み、この街の皆さまに支えられ、成長してまいりました。この間、私たちは地域住民に対して最善の医療を提供できるよう、時代の動向や医療の変化に合わせて、つねに病院のあり方を見つめ、さまざまな改革や取り組みを行ってきました。

その一つが地域の診療所との連携です。開放型病床、地域医療連絡室の設置など、順次、地域医療連携の体制を整えつつ、国の推進する「かかりつけ医制度」に積極的に取り組んでまいりました。

こうした取り組みの一つ一つが、地域医療に携わる先生方にご理解をいただいた、その結果が「地域医療支援病院」の承認であったと思います。

この承認は、決して私たち東住吉森本病院のみにいただいたものではなく、地域の診療所、病院、地域医療に携わる方々とのネットワーク全体に対して、さらには医療の枠組みの変化について、理解と協力をくださった患者さん、地域住民とともに、この街全体でいただいたものであり、今後はより一層、地域医療の活性化と、質の向上に取り組んでいきたいと考えています。

そのために私たちは「情報」の果たす役割の重要性を認識し、情報の公開と提供を積極的に行ってまいります。

さらに、私たちはこのたびの「地域医療支援

病院」承認を一つのステップとして、この街に理想の地域医療を築くため、新たな地に病院を移転し、現時点で考えうる最善・最高の地域医療支援病院を建設したいと考えています。この新病院は、地域医療に従事する方々に積極的にご利用していただくことを前提に、「開かれた病院」を徹底的に追求しています。この冊子は、私たちの取り組みと、地域医療支援病院の使命、そして新病院の概要をお伝えし、皆さまと私たちのより良い関係づくり役に役立てていきたいと念願して発行するものです。

お忙しいとは思いますが、ぜひご一読いただきますよう、お願いいたします。



院長
宮城 邦栄

社会の求める病院像を追求して。

Text 01

いつも根底には、
患者さん第一、
地域第一の思想が
あった



東住吉森本病院は、昭和46年、外科病院からスタートし、今日まで成長してきた病院です。当時、この地域には大きな病院が無かったことから、救急の中心的な役割を担い続けてきたと自負しております。その後、脳外科ができ、内科が加わって、現在のカたちをとるに至って、地域全体の役に立つ病院をめざすべきだとの認識が高まってきました。

このため当院では、患者さんに対する医療サービスの質的向上に関しては、平成5年より全国でもいち早く365日無休診療、翌年には院内オーダリングシステムによる効率化などに取り組んできました。また、職員の能力開発、サービスの質的向上などをめざして、昭和57年には病院と

してはユニークな活動となった「QCサークル」活動を展開、全国大会で表彰されました。さらに、より良い職場環境をめざす取り組みでは職能給制度の導入、完全週休2日制の導入を実施。こうした取り組みの成果として、平成9年には病院機能評価を受審し、認定を受けました。

Text 02

病院を取り巻く 環境の変化

わが国の医療制度が今や財政破綻の危機に直面していることは、すでに皆さまもご承知の通りです。

また一方で、医療技術の進歩や、国民の医療や病院に対する意識の変化など、医療を取り巻く環境も大きく変化してきています。

こうしたさまざまな環境変化に対応しつつ、国民が望む良質で効率的な医療を実現するためには、医療制度の抜本的な改革が必要なのです。これまで病院や医療機関を護送船団方式で守ってきた医療制度は、「今のままではもう通用しない」「改革に取り組みない病院は淘汰される」という方向へ、今180度変化しようとしています。

病院や医療機関が、単に医療を提供する



ことに価値があった時代が終わり、これからは病院は地域の中で、地域の医療ネットワークの中でどういう役割を果たすか、どういう機能を持つか、が問われています。

Text 03

今、 地域医療は

こうした状況を背景として、これからの地域医療を考える時、個々の医療機関が個別に医療を提供するのではなく、地域全体で医療を提供していくことを前提にしなければなりません。つまりプライマリーケアから終末医療までが揃った総合的な地域医療ネットワークの中で、医療機関のそれぞれの役割と機能が明確化され、分担されます。当院が外来を縮小し、救急と入院治療に特化した病院経営をめざすのは、外来機能を地域の診療所にお任せしていこうと考えているからです。こうした連携によってしか、地域医療が健全に、かつ安定したカタチを整えることは不可能であると、私たちは考えています。地域医療の健全なカタチとは、まさに地域の住民に最適の医療を安定して、効率的に提供できるカタチであることはいまでもありません。

Text 04

新しい病院の 必要性・必然性

医療の現状、そして地域医療の未来像を踏まえて、私たちはどうあるべきかを考えた時、私たちは「地域医療支援病院」の承認をいただく取り組みを開始しました。その承認には「診療所からの紹介患者を中心に診療活動を行っていること」「病床、高額医療機器等の共同利用を実施していること」「救急医療の提供を行っていること」。また、「地域の医療従事者の資質の向上のための研修を実施していること」といったハードルがあります。中でも紹介率80%というハードルは極めて高いものでしたが、2002年秋に達成することができました。これはひとえに、地域の診療所の先生方のご協力のたまものに他なりません。2003年2月、こうして私たちは「地域医療支援病院」の承認をいただくことができました。そして、この承認を一つのステップとして、この街に理想の地域医療ネットワークを築く一助とするため、私たちは新たな地に病院を移転し、現時点で考える最善・最高の地域医療支援病院を建設することを決意しました。それが「新しい東住吉森本病院」です。

昭和46年1月
外科「森本病院」として開設

昭和55年及び昭和63年の
増改築に伴い現在に至る

昭和57年
QCサークル活動導入

昭和60年
職能給制度導入

平成2年
完全週休2日制導入

平成6年
院内オーダリングシステム稼働開始

平成8年
訪問看護ステーション開設

平成9年
病院機能評価受審

平成10年
地域医療連絡室開設

平成11年
横山病院新病院オープン
老人保健施設たちばなオープン
病院機能評価
一般病院(B 認定)

平成12年
形成外科新設 開放型病院取得

平成13年
消化器センター開設

平成14年
日帰り手術センター開設

平成15年
地域医療支援病院承認
東住吉森本リハビリテーション
病院オープン

地域医療連携の推進。

Text 01

かかりつけ医制度の推進

私たち東住吉森本病院では、「かかりつけ医」制度を積極的に推進しています。このため、とくに当院に来院される患者さんに対して「かかりつけ医」制度について、その意義や効用を正確にお伝えし、「かかりつけ医」を持つことをお勧めしています。このことが患者さんにとってより優れた医療サービスを受けることに直結するということを、啓蒙していきます。

Text 02

地域医療連絡室の整備

地域の診療所、医療機関との連携を図り、「かかりつけ医」制度を推進するための中心的な組織として、当院は「地域医療連絡室」を設置しています。この連絡室の活動により、「かかりつけ医」からのご紹介患者さんは、診療や検査、入院まで待ち時間はほとんどありません。もちろんご紹介患者さんの治療後、退院後は、ご紹介元の診療所、医療機関に速やかにお戻りいただくよう、迅速に手配をいたします。

Text 03

地域診療所や医療機関への情報公開と共同研修

当院の医師、看護師、薬剤師、検査技師、放射線技師、理学療法士、栄養士、事務員等全職員が、地域医療の向上に貢献するため、各部署や各個人が持つ医療情報を開示し、情報交換を行っています。こうした当院の医療情報は地域の医療機関の皆さま方にも広く公開しております。また、診療所の先生方をはじめとして、地域医療の従事者全体の医療知識・技術の向上に貢献するため、皆さまと共に症例検討会、研修、講演会を定期的に行っています。



Text 04

患者さんをご紹介して いただきやすい 環境づくり

センター化による総合的治療

現在の「消化器センター」に加え、「循環器」「脳卒中」においてもセンター化し、総合的な治療を提供していきます。ここではそれぞれの疾患に関する高度で専門的な医療情報や技術を集約、より確実で、より迅速な治療を実現します。

専門外来の設置

当院ならではの得意分野を活かして、「専門外来」を立ち上げていきます。「専門外来」は、患者さんにとって「専門医がいて専門的な医療を受けられる」という安心感が得られます。また、地域の診療所の先生方にとっても、どこに、また誰に紹介すればいいかが明確になります。さらに当院にはない診療科を有する病院へは、積極的に当院から逆紹介をします。

日帰り手術センターの設置

日帰り手術とは、その日のうち、もしくは1泊2日程度で退院するシステム。対象

となるのは、その部分さえ手術してしまえば全くの健康人という方です。米国では全手術の約80%、北ヨーロッパでも約50%が日帰り手術となっています。当院でも、こうした高いニーズに応えて「日帰り手術センター」を開設し、多様な疾患の手術に対応しています。

情報提供・公開

患者さんに対しては、インフォームドコンセントを徹底し、治療方法をオープンにし、「治療の内容を知る」「治療方法を選ぶ・拒否する」といった患者さんの基本的権利を守ります。さらに患者さんのプライバシー保護や、人間として尊重される権利をいささかたりともおろそかにしません。診療所の先生からご紹介いただいた患者さんの信頼を決して裏切らない努力をいたします。



理想の地域医療の実現へ。



Text 01

「地域医療支援病院」 とは

地域医療連携を推進していく中で、東住吉森本病院は、「地域医療支援病院」をめざし、そして承認をいただきました。地域医療のカタチがダイナミックに変わる中、「地域医療支援病院」は、これからの理想の地域医療を先取りするものと私たちは考えています。

ただし、「地域医療支援病院」は大阪府で初、全国でも50施設（2003年3月現在）を数えるのみであり、明快なモデルが無いこともあり、さらに厚生労働省の描く医療提供体制の中での位置づけも、必ずしも明確とは言えません。

こうした中で、私たちは「地域医療支援病院」をステップとして、理想の地域医療ネットワークを構築するために、私たちが持つべき機能を次のようにイメージしています。

Text 02

クライアント・サーバー型 ネットワーク

クライアント・サーバー型ネットワークという用語を、コンピュータをご利用の方であれば、すでにご存知であると思います。

私たちは理想の地域医療ネットワークを、クライアント・サーバー型ネットワークになぞらえて考えています。

クライアントとは命令を実行するコンピ

ュータであり、サーバーは情報を蓄積し、発信するコンピュータです。つまり、クライアントは地域診療所、または地域医療に従事するすべての方々です。そしてサーバーは東住吉森本病院。診療所の先生や医療従事者の皆さまの要請に応じて機能を実行したり、蓄積した情報を発信します。サーバーは姿形こそクライアントより大きいですが、実際にはクライアントに利用していただくことを前提とした存在です。

つまり、私たちの機能と施設、設備を十分に利用していただくことが、地域医療支援病院の重要な使命だと考えています。それだけに私たちは私たちの敷居を高くすることなく、まさにすべての壁を取り払い、門を開け放って、地域医療に従事する方々から、入りやすい、行きやすい、参加しやすい、と思っただけの「開かれた病院」をめざします。

まさに「みんなの病院」なのです。地域住民や地域の患者さん、地域医療に従事するすべての皆さまに、私たちの病院を開放します。

Text 03

診療所の先生方に利用 していただく

4つの機能

1 救急機能

救急医療を提供する設備・施設を整備し、短期集中治療の実現や、病床の回転率向

上などに取り組み、満床を理由に救急患者さんをお断りすることが無いよう万全の体制を作ります。

2 高度急性期機能

地域の診療所の先生方から「選ばれる病院」をめざし、専門特化された独自の医療を提供していきます。日帰り手術センター・消化器センター等のセンター機能を充実させていく方針です。

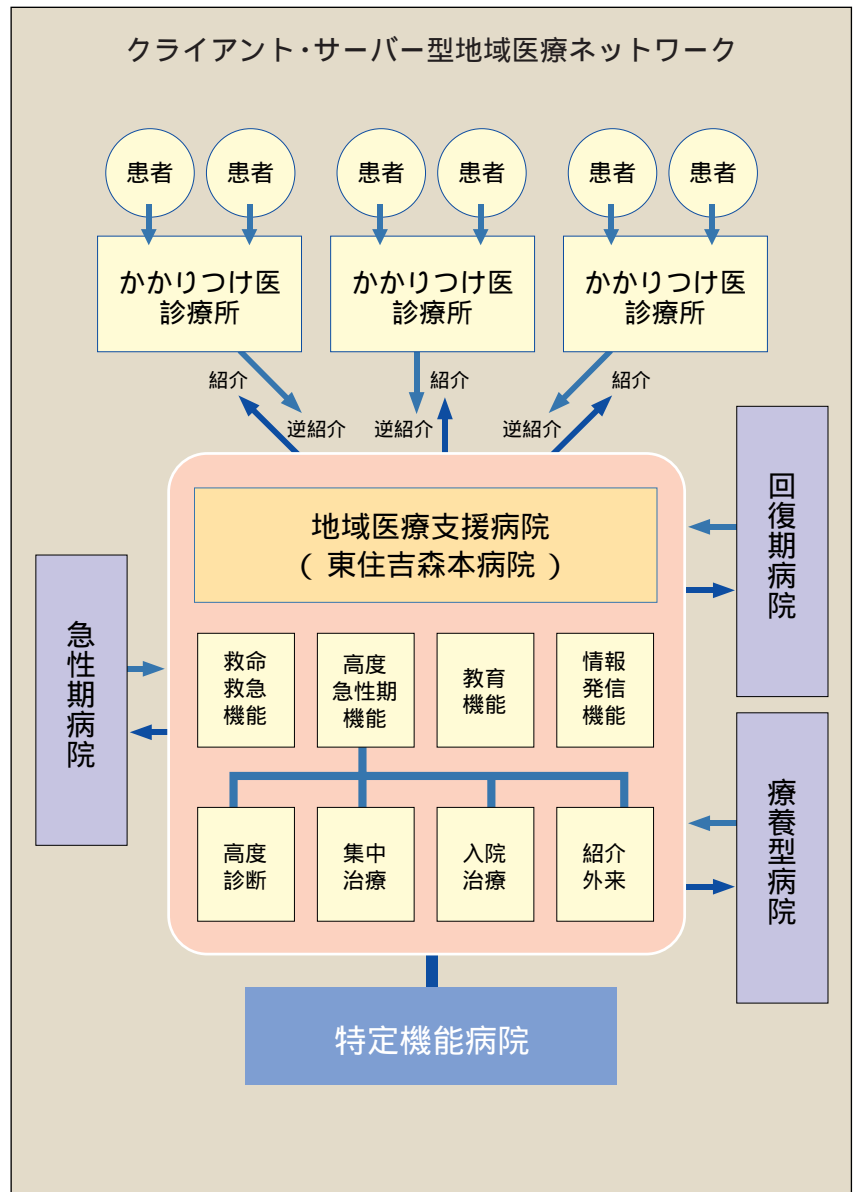
また、「院内事故防止体制の整備」と「詳細な入院診療計画（＝クリティカル・パス）の作成」を通じて、効率的な医療を実現し、より安全でより確かな医療の提供を進めていきます。

3 教育機能

地域医療に従事する皆さまとの研修会や、登録医の先生方との勉強会を積極的に行っています。私たちのめざす理想の病院とは、地域における医療に関する人材研修センターの役割を担うべきだと考えています。

4 情報発信機能

患者さんに納得のいく医療を受けていただく上で、情報提供は不可欠です。そして、信頼のおける医療を実現するためにも、包み隠さず情報をすべて公開していく必要があります。また、緊密な医療連携の実現のためにも自院の持つ医療サービスに関する機能・人的能力、設備等を積極的に開示していくことが重要だと考えます。さらに地域住民が健康で楽しく、生き生きと人生を送るための情報とサービスを提供するのも、私たちの使命です。



新しい「東住吉森本病院」の具体像

これからの病院のスタンダードをめざして。

地域医療支援病院としての機能と役割をしっかりと果たすために、新しい病院にはさまざまな配慮、工夫を施しました。例えば、緊急時に集中して素早く対応できる救急エリア、迅速な高度診断を可能にする検査エリアをはじめ、紹介外来、専門治療、集中治療のエリアなど、すべてに機能性を追求し、そのうえで余裕ある空間となっています。地域の診療所や病院の先生方は、まずは1階の受付奥に設けた先生方のための医師室にお越しく下さい。ここを拠点に、院内のすべての施設を存分に活用していただくことができます。



1 救急医療機能

東住吉地域住民の生命を守る
24時間365日の救急体制。

従来通り、24時間365日の救急体制を堅持していきますが、さらに「第3次救急」に匹敵するクオリティをめざしました。なかでも救急車の到着から診察、検査、手術といった一連の流れがスムーズに、かつ短時間でできるよう、専用エレベータの設置、外来ゾーンとの分化など、「動線」を徹底的に見直しました。もちろん救急患者さんの移動についても、安静を保ったまま移動できるよう、細心の注意が払われています。また、救急ゾーンは2階までに集約したため、深夜の急患等で3階以上の一般入院病床の静寂を乱すこともありません。

2 高度診断機能

1階、2階に検査から
診断までを行う高度な医療設備・
機器を集約しています。

診療所からの紹介患者さんは、高度な専門的知識と診断能力を持った専門医が、X線CT装置、MRI、アンギオ、内視鏡、XP撮影装置、X-TV撮影装置等、最先端の医療検査・診断機器等を駆使して、的確かつ迅速に診断を下します。そして検査データ、診断結果など、受診状況の報告は紹介元の先生に速やかに行い、その後の共同診療あるいは診療所での治療に役立ててまいります。なお、検査機器については、将来さらにCT付PET（ペット）といった先進的な機器を導入できるよう、空間に余裕を持たせています。

3 集中治療機能

短期間に集中して患者さんに
高度な治療を施します。

手術室は5室に増設し、緊急の患者さんや紹介患者さんにより迅速に対応、無駄な待ち時間を解消します。将来的には診療科別の専用手術室とし、より専門的・機能的な使用に対応できるように計画中です。また器材、材料などの搬入と搬出の動線を分化し、院内感染に配慮しています。ICUについては10床あり、24時間体制で患者さんを見守るクリーンルーム化された完全型ICUとなっています。また2階の日帰り手術センターでは6床を設けて、日帰り手術に対応。もちろん念のための1泊程度の入院も可能となっています。



4 入院治療機能

3つのセンターを中心に、入院患者さんのためのQOL向上を主眼においています。

3階には脳卒中センター、4階には消化器センター、そして5階には循環器センターを設けています。センターを中心に、いずれの病棟でも紹介患者さんのQOLの向上を主眼におき、専門的な入院治療を提供します。環境面では、各室にロッカー、トイレを、一人用の病室にはユニットバスを設置。3階には寝たままで入浴できる特別浴室、病棟ごとに浴室を整備しています。食事面では3~5階に食堂を、さらに最上階には長居公園を一望できる食堂を設け、ここでは患者さんご家族が一緒に食事をしていただくこともできます。スタッフステーションはオープンカウンターで、看護師がつねに病棟を見渡せるようにしました。さらに院内感染とバリアフリーに対してもきめ細やかに配慮しています。なお各病棟にIC（インフォームドコンセント）室を

整備。共同診療に来院された先生が患者さんとお話ししていただくことも可能です。

5 紹介外来機能

紹介患者さんのための落ち着いた外来スペース。

外来では、診療所の先生や地域医療機関からのご紹介で、当院の専門的な治療を受けられる方を中心に受け入れてまいります。患者さんに対しては、治療に関する詳細な説明が、落ち着いた雰囲気の中でできるようIC（インフォームドコンセント）ブースや、医療相談、看護相談をお受けできる相談室を設けました。

6 教育機能

地域医療の質的向上や交流の場として。

2階にある図書室は言うまでもなく、会議室、大会議室、さらには6階の講堂等

も地域医療のために開放していきます。医師同士の勉強会や研究会、セミナー等を実施し、地域医療全体のレベルアップに役立てていただく他、地域医療従事者の研修や交流などにもご利用いただきたいと思います。

7 情報発信機能

地域医療全体に役立つ情報を発信していきます。

1階エントランスホールでは、患者さんや地域住民の方々に対して「かかりつけ医制度」を啓蒙したり、当院と連携してくださる診療所などの情報を提供、地域医療連携がスムーズに働くような広報活動を展開します。また、健康的な生活を送るために必要な医療・健康に関するさまざまな情報も提供し、地域全体の健康を守る役割も果たしていきます。さらに、地域との連携を進めるため、当院のあらゆるデータ、情報を、診療所の先生方のご要望に応じて開示します。

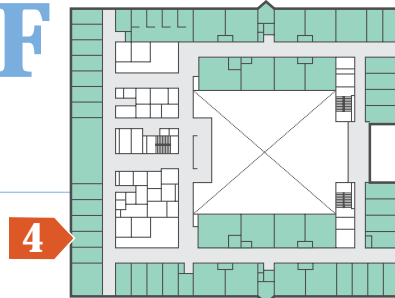
脳卒中センター

3F



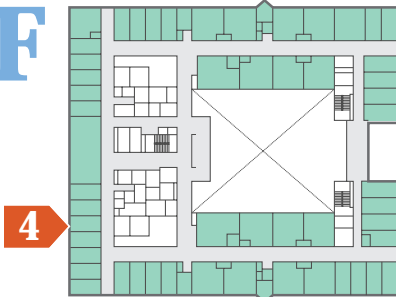
循環器センター

5F

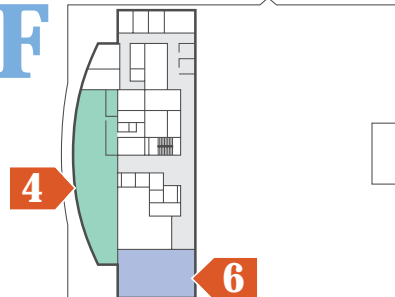


消化器センター

4F



6F



患者さんの健康を第一義とし、 地域に開かれた医療を提供します。

ミッション

*使命

対話と連携を重視し、地域の健康と安心に貢献します。

東住吉森本病院は、急性期医療サービスの主要な担い手として、紹介・救急、入院の機能を重視し、患者さんの健康を第一義として地域に開かれた医療を提供します。

01

患者さんの立場に立った対話のある医療を提供するために努力します。

02

地域医療施設との連携を深め、地域に貢献するために努力します。

03

より良い患者サービスをするために、働きがいのある職場環境の改善・維持に努めます。

ビジョン

*あるべき姿

「地域に必要とされる病院」をめざします。

良質かつ高度な急性期医療サービスを提供するため、当院は「地域に必要とされる病院」をめざし、その実現に向けてさまざまなプロジェクトに取り組んでいます。

01

急性期医療(特化した専門の医療)を提供します。

02

地域医療支援機能を有します。

03

地域診療所の先生方との共同診療(開放型病床の利用)による開かれた医療を提供します。

医療法人 橘会

東住吉森本病院

〒546-0012

大阪市東住吉区中野3丁目8番12号

TEL06-6702-0010(代表)

URL <http://www.age.ne.jp/x/thm-hp/>